

平成28年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員がICT活用やAL型授業の推進を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学カスタンダード等を活用して、個人として教科として授業改善するとともに、資格取得を奨励し、学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の育成を目指し、効果的なICT活用やAL型授業を取り入れた研究授業や公開授業に取り組む。	授業改善に向けた研究授業や公開授業を、年間2回以上取り組んだ教師の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1月末までに教諭・講師(29名)のうち実施した人数 2回(19名)66% 1回(8名)28% 評価：B	教諭・講師29名のうち1月末までに研究授業や公開授業を行った回数と人数は、2回が19名、1回が8名となった。今年度はアクティブ・ラーニング型の授業を全教科で進めており、授業参観の際には授業相互参観シートで評価し、管理職・参観者による授業の質を高める研究協議会を実施し、協議会で出された課題や改善方法等を記録にまとめ全職員に配布している。また、タブレット端末やパソコン、書画カメラなどICT機器を使用して映像資料やインターネット動画などを活用している。 次年度も判定基準を継続し、全員が研究授業や公開授業を年間2回以上取り組み、授業改善の質を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得など、家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：27% B：58% C：12% D：3% 評価：A・B合わせて85%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて85%となり、目標の80%をクリアできた。中間評価と同じで、朝・昼・放課後・夕方以降の補習等の成果であると考えられる。しかし、他の調査項目の家庭学習の取組で「ほとんどしなかった」が38%おり、資格試験に向けた学習は学校の補習に依存し、家庭での学習につながっていない。 次年度に向けては、家庭学習をしている生徒数が増加していないことを考えると、判定基準を継続し、補習後の家庭学習を行う指導の工夫により家庭での自発的学習を促したい。
	③ 全教職員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身に付けさせる。	2学期末での貸し出し図書数が A 1,300冊以上 B 1,100冊以上 C 900冊以上 D 900冊未満	12月に調査 12月末の貸出数1,533冊 評価：A	今年度のA評価基準は昨年度の集計結果を踏まえ、1,200冊以上から1,300冊以上と変更した。12月末の貸出数は、1,533冊となった。11月からの「出前図書」と校内放送を利用した「先生がお薦めのこの1冊」運動により貸出冊数が増加し、A評価が達成できた。 次年度は判定基準を高めるとともに更に工夫し、貸出数の増加に努めたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 1月末現在：938人 評価：A	1月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は938人となり昨年度同時期の881人と比べると合格者数は57人増加しており、判定基準であるA評価(800人以上)を達成できた。2学期以降に受験した多くの資格・検定について、土曜授業をはじめ、工業3学科・クラス担任の連携した受験奨励および補習(朝・昼・放課後・夕方以降)の充実等とリスニング英語検定合格者の増加により目標が達成できたと考えられる。 次年度は、技能検定や工事担任者など受験者数の減少もあるので判定基準を継続させ、受験奨励と指導の充実により合格者数を増加させたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰プログラムの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	1月の申請者数を検証 76人 (ゴールド 24人) (シルバー 52人) 評価：B	1月末現在の集計で、ジュニアマイスター顕彰申請者の延べ人数はゴールド・シルバーの合計が76人でB評価となった。また、「ゴールド特別表彰」については9人となった。申請者数については昨年度の92名には及ばなかった。また、「ゴールド特別表彰」についても過去最多であった昨年の13名より4名減少したが、現3年生で2年生の時すでに特別表彰を得ている者が3名おり、3年生での比較では昨年より1名多い12名が受賞したこととなる。年間を通して認定者が減少したのは前期の申請数が少なかったことも要因として考えられる。 次年度も判定基準を継続し、基準に達した生徒は積極的に申請するよう指導していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：42% B：54% C：4% D：0% 評価：A・B合わせて96%	生徒対象アンケート結果、意識が高まった割合は、A・B合わせて96%となり、判定基準をクリアしている。10月の2年生全員参加のインターンシップでは、進路選択に役立ったとする生徒の割合は、83%であった。12月の1、2年生全員参加の「卒業生による地元企業を知る会」では、自分の進路に役立ったという生徒は、96%と好評であった。 次年度も判定基準を継続し、進路指導課と学年団と協力して行事や学年ごとで必要とされる進路資料の作成、活用方法を検討し、計画的に取組んでいきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。外部講師による講演や面接指導、全教職員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：38% B：54% C：6% D：2% 評価：A・B合わせて92%	生徒対象アンケート結果、実力がついた割合は、A・B合わせて92%となり、判定基準をクリアしている。全学年による朝学習も生徒は落ち着いて取組んでいる。今年度は6月から面接指導をスタートさせ本試験まで繰り返し行ってきた。また進学希望者に対しては、高校の基礎固めとして6月から1月まで毎日科目を決めて補習を実施してきた。 次年度も判定基準を継続し、企業の求める人材について研究し、その力を付けさせる様に努力するとともに、進学希望者に対しても効果的な指導を行ってきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・家庭学習について、就職決定後の生徒の意識も影響していると思う。我々も家に帰ってあまり勉強をしなかった。基本的に学校で勉強ができて、それで理解できれば良いとも考えられる。 ・資格取得について、新聞に一杯出ている。どんどん出せば、やはり学校のPRにもなるので、良いと思う。 ・企業では入社試験の時に、資格は一つの評価基準にしている。たくさん持っている、中身にもよるが、これは良い事だからしっかりと取らした方がよい。これを目指せば家庭でも勉強すると思う。 ・進路実現では、皆勤賞などがあるが、これはすごく重要なポイントで、社会人になって会社を勝手に休むとか、ちょくちょく休むのは危険である。皆勤賞の持つ意味は大きく、企業へのアピールになるので、進路指導の部分に付け加えて、努力させていけばよいと思う。	3年生を対象に 12月末に調査 内定率 99% 評価：B	12月までに89名の就職希望者に対して88名が内定し、内定率99%であり評価基準をクリアしている(1月末では100%)。求人数は、近年、県内や関東圏を中心に増加している。恵まれた状況ではあるが、地元企業に目を向かわせ、人材を送り出すことも大切な使命になっている。 次年度も判定基準を継続し、従来の指導を継続させるとともに、企業の要望や求める人材の情報を積極的に集め、計画的に対応していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・授業改善は、家庭学習についての数字の資料を見ると、近年良くなってきたのがまた少し下がったところもあり、課題と考えており改善していきたい。 ・資格の勉強で、覚えて理解したりする力を付けることを大事にしている。なかなか勉強をしたがらないが、資格だと読み込んだり、暗記したり、計算したり、論理的に考えたりする力が求められるので、一生懸命にやっている。今後も継続的に頑張らせたい。また、資格についての情報を集めた冊子「資格取得のすすめ」を作成し、それを活用しながら生徒のモチベーションを高めていきたい。 ・皆勤賞については、入学式の保護者説明会で目標にするように保護者に伝えとると共に、入学オリエンテーションで新入生自身にも伝えていく。毎年30人位おり、今後もしっかりと指導していきたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2	心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、規範意識を高め、生徒会活動や部活動の活性化に努める。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰敢闘賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	高体連基準総合得点が 62.1点 評価：B	今年度高校総体総合成績が62.1点で、12学級以下及び500名以下の部門で敢闘賞を受賞した。男子は45.5で11位であった。目標である高体連表彰敢闘賞を受賞したものの昨年より8.9点及ばずB評価である。今年は、相撲部3位、弓道部男子5位、卓球部女子・柔道部・剣道部・ソフトテニス部男子のベスト8、ヨット部男女の数々の優勝によるものである。 次年度も得点を70以上で敢闘賞を目指しながら、部活動の積極的な取組を推進していきたい。
		② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に、生徒が積極的に取り組み、よい成果を収める。	文化部の活動や成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	各文化部対象に 12月にアンケート調査 A：50% B：46% C：3% D：1% 評価：A・B合わせて96%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて96%となり、昨年度を3ポイント上回った。おもな活躍には囲碁将棋部が全国高校囲碁選手権石川大会女子団体2位、工業のマイコンカーラリー入賞、美術・デザイン部、写真部、書道部の地域での活躍が挙げられる。 次年度も判定基準を継続し、文化部活動の積極的な取組を推進していきたい。
		③ 生徒会を中心にして行事の企画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：46% B：49% C：4% D：1% 評価：A・B合わせて95%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて95%となり、昨年より1ポイント下回ったものの高い評価である。年間を通して生徒会行事への企画意識が高く積極的に取組む姿勢がみえた。生徒が学校祭で能登の奉灯祭りの再現をしたり、百人一首カルタ大会を復活させるなど、行事をおとじて学校生活を楽んでいる。 次年度も判定基準を継続し、生徒の自主性を育み、行事への企画意識を高めていきたい。
		④ 倫理観・道徳意識に関する全校一斉読み聞かせや発表会を行い、規範意識の向上を目指す。	本校の教育活動や朝の読み聞かせ・発表会により、規範意識が向上したか A 十分向上した B 少し向上した C あまり向上していない D 全く向上していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：34% B：57% C：7% D：2% 評価：A・B合わせて91%	生徒対象アンケート結果、「向上した(A・B)」と答えた生徒は91%となり、目標の判定基準(85%)を越えることができた。また本校教職員にも同様の調査をした結果、95%が「向上している」と回答している。本年度の生徒指導の重点は「ストップ!ネットトラブル!」であり、毎学期の最初はこのテーマで読み聞かせやグループディスカッションとして発表会を行った。生徒の感想文から、良好に受け止めていることがわかる。 ネットトラブルについては緊急で重要な問題であり、「知らないでは済まされない」事である。さらに次年度も継続し、重要課題として取組んでいきたい。
		⑤ 保健日よりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：14% B：64% C：19% D：3% 評価：A・B合わせて78%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて78%となり、判定基準の75%以上を達成でき、前期と比較してほぼ同数となった。例年、後期は健康管理についての意識が数%低くなる傾向にあったが、本年度は新たに12月に1週間、風邪予防週間として昼休みに風邪予防等についての放送を行い、同時に健康調査を実施した。この取組がある程度効果を上げたのではないかと考える。 次年度も判定基準を継続し、引き続き取組を実施し、生徒の健康に対する意識が向上するように努めたい。
3	社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供や奉仕活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 12月にアンケート調査 A：50% B：47% C：3% D：0% 評価：A・B合わせて97%	生徒対象アンケート結果、A・Bあわせて97%となり、昨年より9ポイント上回り高い評価である。社会に貢献する大切さや必要性を認識し、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動の大切さは十分理解していることが読み取れる。 次年度は判定基準を高めるとともに、取組に工夫を加え、より実践していく生徒の育成に努めていきたい。
		② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	平均18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ISO委員により、1月に教室清掃を1週間調査 (1日20点満点で評価) 平均点が18点以上のクラスは、5クラス 56% 評価：D	昨年度と調査方法を変更した結果、中間評価では3クラス全体平均16.9点、最終評価では5クラスで全体平均が18.2点となった。昼休みの放送で丁寧な掃除を呼びかけ、若干増加したものの判断基準には全く届かず評価はDとなった。基準とする平均18点に届かなかったクラスの平均は16.7点とあとわずかなものであった。 次年度も判定基準を継続し、一日一善運動なども含め、様々な機会を通して丁寧な清掃や校内の環境美化を訴え、生徒たちに毎日の丁寧な掃除を実践させていきたい。
		環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	12月にアンケート調査 よくあてはまる 44% ややあてはまる 48% 評価：A・B合わせて92%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて92%の生徒が環境保全に取り組んでいると回答した。92%は近年で最も高い数値である。 次年度も判定基準を継続し、環境保全とともに環境美化についての生徒たちの意識の高揚を図っていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理観と規範意識の調査を行っているが、生徒自身の心と体、心の発達、そういうところを社会の現状に対して皆さんどういう見解なのか非常に興味がある。いじめや自殺などショックなことだが、思春期の子ども達はどう思っているか、子ども達に考えさせるのも大切だと思う。</li> <li>・保健や健康管理についての環境は分かるが、社会で言っているような悩みを抱えた生徒のメンタルヘルスについて、学校として特に兆候を探ったりなど特別な活動でつかんで欲しい。また、いじめばかりではなく、学業についていけない事で段々精神的に参ってしまう事もつかむようにして欲しい。</li> <li>・5Sというのは、どこの企業でもすごく厳しくやっているので、掃除が一番の肝だから、徹底させて欲しい。厳しいくらいに「ピカピカにしてくれ」と言って良い癖をつけた方が、企業に行っても「羽咋工業の生徒はやっぱいいね」という風な評判で、伝統になっていくと思う。是非お願いしたい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の規範意識週間の6月のテーマが「いじめをなくすためにあなたにできることはなんですか」で、一週間、生徒は考えており、グループディスカッションをして発表を行った。その中で子ども達は、ものすごく近い話題として、ものすごくよい発表がたくさん出て、さらに発表を聞いて周りの生徒がものすごく心が打たれたと言っていた。今後もテーマに工夫を加え、継続していきたい。</li> <li>・悩みを抱えた生徒のメンタルヘルスについて、休みがちになったり、保健室や相談室にくる生徒に兆候が出ていないか各担当で見ていないか、カウンセリングをして欲しい。してあげたらよい様な生徒に専門家のカウンセリングを受けさせた。また、悩みを抱える保護者のカウンセリングも行った。保健日誌や各担当からのこまめな情報をもとに、今後も早期の対応に努めたい。</li> <li>・高校卒業後すぐ社会に出る生徒が多いので、ISO委員会の教室清掃の取組をはじめとして、5Sについてしっかり取り組んでいきたい。</li> </ul>			